

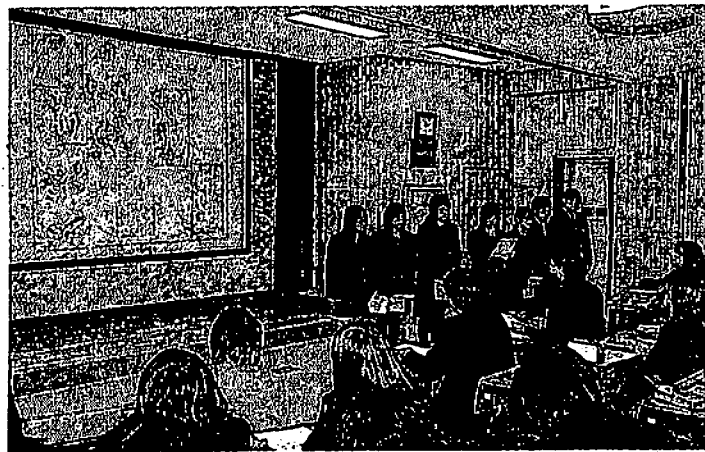
京都新聞

2007年(平成19年)1月23日 火曜日

仮想企業で経営を学んだ体験を報告する生徒たち
(福知山市大江町・大江高)

大江高生

仮想会社の経営報告 商品開発、販売の苦勞も



昨秋、インターネット上に仮想の会社を立ち上げ、経営に取り組んだ福知山市の大江高ソフト経済科の三年生が二十二日、その経営報告を同高で行った。若い発想で商品を開発し、販売した喜びや経理や組織運営の難しさを語った。

「仮想企業」は、NPO法人(特定非営利活動法人)「アントレプレナード」(京都市下京区)が管理するネット上の商店街で商取引し、会社

三年生五十一人は昨年九月、仮想企業を六社設立。各社は鬼伝説にちなんだレース付き鬼パンツや完全無農薬綿を使う下着など、独自商品を開発した。報告会では、地元商工会や衣料メーカーの助言で商品に改良を加え、業績を伸ばしたことを紹介、売り上げや経常損益も公表した。

カイロが入る手袋を作った社は、一万六千円以上売り上げた。社長の菊地結依さんは「市場の現状とニーズを知り、消費者の購買意欲を考えた商品開発が大事だとわかった」と話した。

経営を体験できる。同高は七年前から参加している。